



ふるさと山梨で、子どもたちとふれあう コンサートをやりたいんですー千葉純子さん

YAMANASHI People
甲斐のひと、インタビュー

千葉純子(ちばじゅんこ)
甲府市出身。3歳半の時にバイオリンを始める。貴川小学校、英和中学校、東京・調布市にある桐朋学園高校を経て、ニューヨーク・ジュリアード音楽院に留学。NYアーティスト・インターナショナル・コンペティションで優勝、ティポール・ヴァルガ国際バイオリン・コンクール入賞、大垣音楽祭最優秀新人賞などを受賞、若手バイオリニストとしてますますの活躍が期待される。

紅 葉が鮮やかに色づく山梨県立美術館。翌日に清里でのリサイタルを控えたバイオリニスト千葉純子さんは、九カ月になるお子さんを連れて現れた。初夏にも美術館を訪れたという千葉さんは敷地内の紅葉の美しさに心を奪われていた。

に練習をしてきた。時に練習に行き詰まることもあったが、助けてくれたのはお母さんだった。
「誰もいない早朝の釜無川に連れられ、母と一人で練習をしたんです。当時はとてもいい気分転換になったし、

族の存在が「バイオリニスト千葉純子」の大きな支えになったのかもしれない。
結婚をして一児の母となった千葉さん。子どもの名前には父のような立派な人になって欲しいと、お父さ

CHIBA JUNKO
「音楽は演奏する人の気持ちや経験が表れるもの」と言う千葉さんは、子どもが生まれたことで新たにチャレンジしたいことができた。
「ふるさと山梨で、子どもたちとふれあうコンサートをやりたいんです。作曲家を分かりやすく紹介しながらその作品を演奏する。音楽を身近に感じてもらうことで、小さな芽を育てていくお手伝いがしたいんです。音楽を好きになるきっかけになれば…」
山梨に帰ってくるたびに「私のふるさととはどこなんだ」と実感するという千葉さん。「コンサートで舞台の上から知り合いの顔が見えるとてもうれしい。地域の方や、学生時代の友達。音楽を通じて、つながりがますます強くなっていくのを感じます。東京の友達も、ふるさとがあることに帰れることがうらやましいと言います。山梨は自然に恵まれた美しい場所。こういう環境に戻ってこられることは幸せであり、誇りに思えること。心の豊かさにつながりますよね」
紅葉を見上げながら話す千葉さんの表情が「ふるさと」を感じてきた。

千葉さんは、ほとんどなくその才能を開花させ、全国から集まった生徒の中から選ばれて海外への演奏旅行を経験する。「普通の小学生の生活ではなかった」と言う。小学校時代は、アメリカ・カナダ・オーストラリアと度重なる海外遠征で長く学校を休むことがあり、遅れた勉強を取り戻すのに大変だったという。



自然から力を与えてもらった」と言う。
二年前に他界したお父さんも、生前は千葉さんの演奏会に全国各地どこも足を運んでくれた。「まとまったときの団結力は強いんです」という家



んの名前の字が当てられている。「家族がいて、子どもがいて、いまとても幸せです。子どもがこんなにもいとおしいとは思わなかった。生まれてきてくれて本当にありがとうと言っているんです」と顔をほころばせた。

「ふるさと山梨で、子どもたちとふれあうコンサートをやりたいんです。作曲家を分かりやすく紹介しながらその作品を演奏する。音楽を身近に感じてもらうことで、小さな芽を育てていくお手伝いがしたいんです。音楽を好きになるきっかけになれば…」
山梨に帰ってくるたびに「私のふるさととはどこなんだ」と実感するという千葉さん。「コンサートで舞台の上から知り合いの顔が見えるとてもうれしい。地域の方や、学生時代の友達。音楽を通じて、つながりがますます強くなっていくのを感じます。東京の友達も、ふるさとがあることに帰れることがうらやましいと言います。山梨は自然に恵まれた美しい場所。こういう環境に戻ってこられることは幸せであり、誇りに思えること。心の豊かさにつながりますよね」
紅葉を見上げながら話す千葉さんの表情が「ふるさと」を感じてきた。

ふれあい

家族と旅行に行くときも、友達と花火大会に行くときも、バイオリンの練習をしてきたら、とにかくバイオリンはやるものと思ひ、ひたむき